

長田下地域 振興会だより 第17号

2013年(平成25年)7月20日発行

4/21 平成25年度総会

13:30～ 真徳寺

当日は、多数の参加により開会。浜田市長を迎え、市の政策の一つである「お太助フォン」の説明を受け、その後に総会を開催。平成25年度の行事や予算、役員人事について決定。また、「長田下地域防災会」についても審議・決定しました。紙面の都合上詳細は省略しますが、長時間でのさまざまな議事も参加者の協力により無事終了しました。参加の皆様ご苦労様でした。



旧役員の方々ありがとうございました。
新役員の方々よろしくお願ひします。

(担当 T. K)

6/8 平成25年度第1回

ふれあいの集い

下長田集会所で第1回ふれあいの集いが、28名の参加で行われました。振興会笹岡会長・ふれあい部中川部長の挨拶、説明後、向原駐在所警部補の谷口さんより、身近な犯罪を防ぐための心構えを教わり、大変参考になりました。

ささき亭の両祖さんのハーモニカ演奏は心和むと好評でした。「かがやき」の大前さんより、いつもの体操を教わり、皆さん楽しそうに体を動かして、日頃の運動不足を痛感されたことでしょう。汗をかいた後は、お茶・おやつを頂きながら、談笑した楽しい集いでした。



(担当 K. M)

『特集』 先進地域視察研修に参加して

視察地 : やまぐちけんいわくにし ゆうちょうしんとうちいき
山口県岩国市由宇町神東地域

地域の課題 : 空き家の増加・集落の協働作業が困難・一人暮らしの高齢者の増加
耕作放棄地の増大など

3月16日に、「向原町地域振興会連絡協議会」主催の研修へ当振興会から参加した3名がこの神東地域を訪れ、その取り組みを研修してきました。前面に瀬戸内海が広がり、後ろは山がそびえ、平地の少ない自然豊かな中山間地域でした。

神東地域振興協議会では、

第Ⅰ期 神東地域夢プラン (H19年度~H22年度)

テーマ : 昭和30年代の豊かな里山の復元

第Ⅱ期 神東地域夢プラン (H23年度~5カ年計画)

テーマ : 地域絆ネットワークの構築

この2つの夢プランを策定し、数々の事業を展開してきています。その中で、地域づくりには、みんなが集う場所が必要だと、地域交流センター「ひだまりの家」を完成させ、今、そのセンターが中心になっています。今回の私たちの研修も、そこで行われました。

第1期の夢プランでは、①里山学習村プロジェクト、②岩国市移住応援団(空き家登録)、③竹林伐採作業(月1回)、④イノシシ防護柵設置(5km)、⑤地域こども教室(年8回)などの事業をやってこられ、今は、第2期の夢プランをもとに取り組んでいるそうです。

私が特に注目したのは、一人暮らしの高齢者が増えていく中で、きめ細かい災害時要援護者情報マップを作成されていることです。災害時避難誘導や安否確認が必要な世帯と支援者宅がすぐ表示できるようになっているのです。調査し、集めた資料は膨大な量になったそうです。よくこんなマップができたなと思いました。今後は、この情報マップをどのように活用していくかが大事だと話されていました。

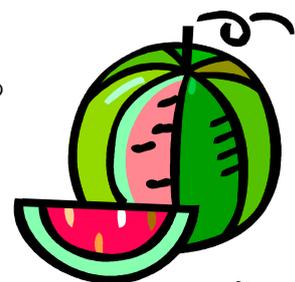
最後に、会長さんより、「地域の中で助けたり、助けられたり、お互い様の気持ちでつきあえる。そんな地域になるよう、仲間といっしょに楽しみながらがんばっていきます。」との言葉。「楽しみながら」がなかったら続かないそうです。本当にそうですね。今後このような取り組みが長田下地域にも必要になると感じました。

(担当 Y. H)

広報委員会より

今年も昨年と同じメンバーが担当しております。少しでも役に立つ情報をお届けできれば幸いです。

委員 : 谷林文男 寺尾文尚 火上保雄 松田 清
児玉尊子 金岡俊信 (事務局)岩見達也



「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える⑧

今回は、下長田地区に残る古代人のお墓「古墳」について調べてみました。

古墳とは、弥生時代終りごろの3世紀末から7世紀末ごろまでに造られた地域の政治権力者や支配者の土盛りの墓のことです。

皆さんの中には、幼少の頃、古墳の中で遊んだり、その中から土器のかけらや刀などの金属片を見つけたりした人もおられることでしょう。

ところで、皆さん、この長田全域で何基の古墳が発見されたと思われますか。確かな資料がなかなか見つからなかったため、安芸高田市教育委員会社会教育係長の川尻真さん（元市立歴史民俗博物館の学芸員）や地元歴史研究家の井上沖彦さんにたずねてみると、過去に、なんと44基も発見され、調査されていたことが分かりました。

わたしたちの住む下長田には、そのうちの20基も発見されたことが分かりました。徳丸古墳群が14基、石井谷山古墳群が4基、松尾古墳が2基記録されていました。未発見のものも多くあることでしょう。資料の中に、古墳群と書かれているので、首長など一族の墓を一か所にまとめて造ったとも推測できます。ほとんどが円墳（丸い土盛りの墓）で、直径10m前後、規模はそれほど大きいものではありません。それにしても、古墳が何基もあるということは、この長田の地を統治していた人たちがいたということですね。

その中で、長田7区下の松尾古墳は、松田ハツコさん宅前方の尾根にあり、向原町内では数少ない竪穴式石室（幅が約0.6m、長さ約3m）のある円墳で、規模も直径12mほどの土盛りです。4～5世紀ごろ造られたものであろうとされています。その他の長田の古墳は、ほとんどが横穴式です。

それにしても、これを造るには多くの人を使い、土木工事も大変だったでしょう。石室の内壁やふたの部分の厚い石は、大人の一人や二人では持ち上げられないものもあります。大型機械のない時代に、山の上に大きな石を運ぶなど、どんな人物が、どんな方法でやったのだらうと想像するばかりです。

右の写真は、広報委員が現地に行き、写した松尾古墳です。石室は破壊されずに残っており、ふた部分の厚い石も近くに置いてありました。

なお、実地に大型古墳を見たい方は、遠方へ行かなくても、広島県でも有数の下戸島の「戸島大塚古墳」を見学されてはいかがでしょうか。石室にも入られます。

(担当 F. T)



2枚とも現在の松尾古墳



下長田人物伝(2)



今年度も、様々な分野で元気に活躍されている方にスポットをあてて皆さんにご紹介したいと思います。

第2回は長田5区の火上富江さんに元気の秘訣を探るべくお話を伺いました。

年令を感じさせない火上さんですが、大正11年、東広島市の志和で8人兄妹の2番目としてお生まれになりました。子どもの頃は山の中を駆け回る活発な少女で、それが現在の丈夫な身体的基础になっておられるそうです。

二十歳頃にご結婚されたそうですが、間もなく戦争が始まり、千葉に行かれたご主人のもとを訪ねられ、焼夷弾が落ちてくるなかを無事にご実家に戻られた際には、気丈なお母様が泣いて喜んで下さったそうです。

お茶、お花、詩吟と何でもござれ。特に65歳からはじめられた詩吟は、大会に出るたびに入賞を重ねられ、短歌の部・漢詩の部ともに県大会で優勝されています。平成18年には最上段の十段を修得、現在は上師範として後進の指導にあたられています。

健康面で気をつけておられるのは、血圧が高めなので塩分を控えめにされているそうです。そして、ご家族の薦めですと続けられているのが、漢字検定の書写だそうです。実は算数の方が好きだったと言われていましたが、漢字がびっしり書かれたノートを見せて下さいました。時間を忘れて手を動かすことがよどみのない受け答えにつながっているのではないかと思います。

自分で決断され道を切り開いてこられた91年。若い人たちにはより良く改良していくと同時に今まで培ってきたものも大切にしてほしい、昔からの講中はなくしてほしい、とおっしゃっていました。

インターネットで送られてくるひ孫さんの動画を楽しみにされていて、最大の元気の源を発見したように思いました。

博学の火上さん、楽しい時間をありがとうございました。これからもますますお元気で！この地域を見守っててください。

(担当 T. K)

盆踊り・芝居のお知らせ(振興会後援行事)

8月14日(水) 19時開場 下長田盆踊り

金魚すくい、かき氷、飲み物、打ち上げ花火、踊りなど

9月22日(日) 夕方 寄芸長田明神一座地元公演(人情時代劇)

又々の地元公演です

いずれも中長田集会所が会場です。皆様のご参加よろしく願ひします。

発行： 長田下地域自治振興会

担当： 広報委員会、企画調整部